
令和4年度 第2回

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和4年2月2日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この冊子^{きつし}の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外^{ほか}のものを置いてはいけません。受験生^{くわんしん}どうしの貸し借り^{かかしかり}もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. けいたい電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子^{もんたいさつし}の印刷^{いんさつ}が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は18ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

□ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

夢と希望は、似ているようで、ちがいがありません。では、幸福と希望のあいだには、どんなちがいがあるのでしょうか。私たちが今、とても幸福な状態にあるとしましょう。すべてが満ち足りている。何もかもが楽しく思える。目にするすべてが美しくみえる。そんな状態が、幸福という言葉からは連想されます。

幸福な状態にある人が思うことは、ただ一つ。その状態がいつまでも続いてほしい。そう願うことでしよう。幸福は、継続を求めるものなのです。

A 幸福を周囲に感じさせる例として、結婚式の披露宴があります。私もたまにむかしの学生や職場の同僚から、披露宴にマネかれたりします。会場のひな壇に座る新郎・新婦は、まさに幸福のオーラに包まれているものです。友人からのスピーチや恋愛時代の写真が紹介されて、ときおり顔を見合わせてにこやかにほほえみあったり。二人は、この幸福が永遠に続きますようにと、ゼツタイにあり得ないことを本気で信じていたりします。

B 「継続」を求める幸福に対し、希望は「変化」と密接な関係があります。夢とちがって希望は、苦しい現実のなかで意識的にあえて持とうとするものであるといいました。過酷な現在の状況から良い方向にカイゼンしたい。苦しみから少しでもラクになりたい。もしくは誰かをラクにしてあげたい。そんな思いが、希望という言葉には宿っているのです。

希望は、現状の維持を望むというよりは、現状を未来に向かって変化させていきたいと考えるときに、表れるものなのです。

だとすれば、希望を持つためには、きびしい現実から目を背けないことが、まず重要になってきます。過去から現在まで続いている挫折や試練を正面から受け止めることで、その状況を変えるんだという思いは、生まれます。

ただ、変化を起こすことが、一人ひとりの力だけではむずかしいこともあります。そんなときは、同じ変化を希望する人たちと、どんな方向に変えていきたいのかという希望をもとにしながら、一緒に行動できるかどうか、変化の実現はかかってきます。★

C 幸福と希望は、人生によるこびを得るための二つの大きな要素です。幸福と希望のどちらかがすぐれていて、どちらかが劣っているというものではありません。頑張ればずつと変わらずに守り続けられるものがあって、維持できる見通しがあれば、それは幸福につながります。一方で、現状のきびしさを認めつつも、より良い未来が待っていると信じられるような変化が期待できるときに、希望は育まれていくのです。

希望、夢、幸福と並んで、近年とみに重要視されているカチ観が、安心です。

D 安心は、希望とは大きく異なるものです。安心が今日これだけ注目されるようになったのは、それだけ不安が広がっていることのウラガエしです。将来の先行きが見えないとか、経済の不確実性が高まっているという思いが、安心を求める気持ち強めているのです。

では、どうすれば安心は得られるでしょうか。たとえば老後の生活の問題で、政府が「安心してください、年金は必ず受け取れます」といったとします。しかし、それが確実にホシヨウされているという見通しがなければ、安心はできません。安心には確実であることが欠かせない条件です。

それに対して希望は、先行きが確実にみえているわけではありません。むしろ希望は、きびしい状況のなかで、先がみえないからこそ、勇気をもって前にすすむために必要とされるものです。ある程度の見通しを持ってたほうが希望は持ちやすいことありますが、かといって先が完全にみえてしまっているのであれば、希望など持つ必要もなくなります。

希望を持つとは、先がどうなるかわからないときでさえ、何かの実現を追い求める行為です。安心が確実な結果を求めるものだとすれば、希望は模索のカテイ(プロセス)そのものなのです。

不安が大きい社会では、つい確実なものを求めがちになります。しかし不安をマネキやすい、変化のバグしい時代には、かつて確実と思っていたものが、あつという間に役に立たなくなったりします。

いつとき、プロ野球の世界で「勝利の方程式」といういい方が流行したことがありました。先発ピッチャーが交代した後、二番手は誰、その後の三番手は誰、そして最後の抑えは誰と確実に決めておけば、勝利に結びつきやすいと考えられました。

勝利の方程式があれば、安心してピッチャーの継投^{けいとう}⑨^{サク}を考えることができます。たしかにそれで成功したチームもありましたが、そんな成功もふりかえってみれば、一時的なものにすぎませんでした。チームのピッチャーの状態も変わりま
すし、相手チームの打線^{うちせん}の特徴も年々変わっていくでしょう。そうなれば、状況の変化にあわせて方程式も変えていかな
ければなりません。永久不滅^{ふめつ}の勝利の方程式など、あつたら安心ですが、本当はどこにもないのです。

希望も同じです。どうすればもっとよい将来をもたらすことができるかを考え、ときに思い悩みながら、^{シユウ}⑩^ウ錯誤^{さくご}を
続ける。そこから希望は生まれるのです。

安心に比べれば、希望には、不安や不確実性がつきものです。でも、みんなが安心^{あんしん}を与えられることばかりを求めて、
自分から模索^{もさく}することを望まない社会なんて、実におもしろみのない社会です。

(玄田^{げんた}有史^{ゆうじ}『希望のつくり方』より)

問1 本文中の……線部①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 ——線部A「幸福を周囲に感じさせる例として、結婚式の披露宴けっこんしき ひろうえんがあります」とありますが、なぜ「結婚式の披露宴」が「幸福を周囲に感じさせる例」といえるのですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 結婚の幸福が長くは続かないと分かっているが、披露宴においては、それが永遠であってほしいと本心から願うものだから。

イ 結婚式の披露宴でひな壇ひなだんに座る二人は職場の同僚どうりょうなどのスピーチで結婚生活のアドバイスをしてもらえて、希望に包まれてるように見えるから。

ウ 結婚式の披露宴の中では新郎・新婦しんろうの恋愛時代れんあいの写真しょうざいが紹介されるので、自分の恋愛のことが思いおこされてあたがい気持ちになれるから。

エ 結婚する二人は幸福が永遠に続くと思っているが、それは現実には無理なことなので、それと比べれば自分のほうがまだ幸福だと思えるから。

問3 ——線部B『継続けいぞく』を求める幸福に対し、希望は『変化』と密接な関係があります」とありますが、この「変化」とはどういうものですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえ現在の幸福を失ったとしても、より豊かな幸福へとつなげていこうとするもの。

イ 現在の幸福な状態に満足しながらも、あえてきびしい状況じょうきょうにいつでもうとするもの。

ウ 現在の苦しみを正面から引き受けた上で、その状況をよい方向に変えようとするもの。

エ 自分だけの幸福に満足することなく、多くの人々に幸福を分け与えあたようとするもの。

問4 ——線部C「幸福と希望は、人生によるこびを得るための二つの大きな要素です」とありますが、これはどういふことを言おうとしているのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 確かなものを信じることで生まれる幸福というものと、不確かな現状を変えようとする希望というものは、それぞれが人生のよろこびにつながっているということ。

イ 個人の努力で勝ちとった幸福というものと、多くの人々と共有して社会の変化を目指す希望というものは、ふたつそろふことで、人生のよろこびが生まれるということ。

ウ 頑張^{がんば}って現状を守り続けることで得られる幸福というものの先に、よりよい変化を求め続ける希望というものがあり、希望が成就^{じょうじゅ}することこそ人生のよろこびであるということ。

エ 現在の状況に満足する幸福というものと、現在の状況をよい方向に変えようとする希望というものは、人生のよろこびにおいて相反するものではないということ。

問5 ——線部D「安心は、希望とは大きく異なるものです」とありますが、「安心」と「希望」とが「異なる」ところはどういうところですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 安心が見通しの与えられた結果として感じられるのに対して、希望は見通しがなくても勇気を持って前に進むために必要なものであるところ。

イ 安心が外から与えられる見通しの上に成り立っているのに対して、希望は自分で見通しを立てることから始まるころ。

ウ 安心が確実性の保たれる安定した社会状況の中で求められるのに対して、希望は不確実性の強い社会状況において求められるところ。

エ 安心が不安というあいまいなものを前提としているのに対して、希望はきびしい現実という具体的な苦しみを前提としているところ。

問6 ——線部E 『勝利の方程式』』ということばが使われていますが、筆者は『勝利の方程式』について語ることを通して、どういうことを言おうとしたのですか。その内容の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不安の大きい社会においては、政府などの上に立つものがはっきりとした見通しを提示しなければならない、ということ。

イ 常に勝利をもとめられる社会では、決まった方法を持っていないと次の一手をじっくりと考える時間が得られない、ということ。

ウ 現在はとても不確実な時代なので、確かな方法を求めがちであるが、そのようなものは存在しない、ということ。

エ 成功というものは一時的なものではあるが、それを継続していこうと絶え間なく努力することが真の成功につながる、ということ。

問7 ——線部F 「でも、みんなが安心を与えられることばかりを求めて、自分から模索^{もさく}することを望まない社会なんて、実におもしろみのない社会です」とありますが、「おもしろみ」とはどういうところにあるのですか。その説明を、本文中の★印より前の内容をふまえて六十字以内で説明しなさい。ただし、句読点などの記号も字数にふくめます。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

朱理あかりは小学六年生。小柄こがらでクラスメイトからも「あかちゃん」と子ども扱いあつかされている。クラスに大阪出身りの理緒おが転校してきた。ふたりは仲良くなつたが、理緒は決して自分のことを語ろうとはしない。やがて、理緒がお父さんのことをおそれていることを朱理は知り、それを姉あねの美紅みくや両親りやうしんに相談するが、だれも取り合ってくれなかった。六月のある夕方、理緒から朱理に電話がかかってきた。受話器うわがきの向こうから「もうだめだわ」という声とともに、理緒の泣き声なみきこゑと踏切ふみぎりの音が聞こえてくる。朱理は雨のなか理緒のもとに駆けつけ、びしょぬれになりながら、理緒を自宅じたくに連れてきて、家族に理緒の事情を話し、とりあえず夕食を取ることにした。

晩ばんごはん、なんだかへんな空気くわいだった。

まあ、そうだよね。和気わきあいあいとシチューしちゆうを食べて楽しく過すごせるかって言うと、ちよつときびしい状況じきやうきやうだとわたしも思う。

理緒は緊張きんちやうしているようだった。緊張きんちやうしているっていうか、おびえているっていうか。

お姉ちゃんはどこか①**びり**ついていて、ちらちらとお父さんのほうを見ている。だけど、お父さんは目下のところシチューにしか興味がない、といった感じだ。

お母さんは理緒を元気づけようと思つているのか、ふだんよりずっと明るくふるまっていた。学校で、わたしと理緒がどんなふう^②に過すごしているのか、いろいろと質問して、理緒が**ぼそぼそ**答こたえると、大げさにうなずいたり、あいづちを打ったりした。

お父さんは先に食べ終わると、理緒にお母さんの携けいたい帯たいの番号ばんごうをたずね、リビングを出ていった。廊下ろうかでお父さんが電話をかけている声が、かすかに聞こえてくる。

「もしもし、いきなりお電話してもうしわけありません。私、理緒さんのクラスメイトの染岡そみおか朱理あかりの父親ちちのふちです。お世話にな

っております。……ええ。理緒さんのことですが……」

理緒が聞き耳を立てているのがわかった。スプーンをにぎったまま、
たしは理緒の背せなか中に手おを置いた。

「だいじょうぶだから」

「……うち、やつぱり帰らなきゃ」

「え？」

思いつめたような顔で、理緒は言った。

「お父さんとお母さん、ふたりつきりにしとけない」

すると、お姉ちゃんがきつぱりと言った。

「絶対ダメ。すくなくとも、今晚こんばんはここにいて」

「だって、だって……」

理緒は泣きそうになるのをこらえて、言った。

「うちのいないあいだに、とりかえしのつかないことが起こったら……」

「とりかえしのつかないことって？」

わたしはずねた。理緒はだまりこんだ。

くちびるを引き結んで、ぎゅつとひざの上でこぶしをにぎる。

「理緒ちゃん、お母さんのことが心配なのね」

そう言ったのは、わたしのお母さんだった。理緒の瞳ひとみから、涙なみだが一粒つぶこぼれる。

「あのね、理緒ちゃん。聞いて」

お母さんは理緒のとなりにしゃがんだ。

「なんでもかんでも、あなたが背せお負うことないの」

A
この世の終わりみたいな感じの顔をしている。わ

理緒は顔をくしゃくしゃにして、首を横にふった。

「だけど、うちがいないあいだに、お母さんになにかあったら。うちの、うちのせいで、お父さん、おこらせちゃったのに」
「ちがうよ」

お姉ちゃんが言った。「理緒ちゃんは、なにひとつ悪くないよ」

はっと顔をあげる理緒。お姉ちゃんは真剣しんけんな顔で言った。

「理緒ちゃんのせいじゃない。理緒ちゃんは精一杯せいいつぱいやってきたよ。もう、そんながんばらなくていいよ」
わたしもうなずいた。「そうだよ、理緒。もういいんだよ」

「あとは、おとなにまかせて。だいじょうぶ、みんなあなたの味方だから」

お母さんの言葉に、顔を両手でおおい、すすり泣く理緒。その背中をなでながら、お母さんはわたしに言った。

「朱理、ごめんね」

「え、なにが？」

「お母さん、ちゃんと、朱理のこと見てこなかった。大切な友だちがこんなに苦しんでるの、ひとりで背負ってたなんて……
…たよりない親でほんとうにごめん。もっと、朱理の話聞くべきだった」

「**B**……今さらだよ」

わたしはそう言った。ちよつとだけ声はふるえていた。

「ほんとにそうね。だけど、これからは、わたしもお父さんも、がんばるから。朱理が安心してなんでも話せるように、しっかり向きあうから」

「いいってば、もう」

おこったように言いながら、わたしは泣きそうだった。

でも、今、泣くわけにはいかない。わたしのことは、今、どうでもいい。わたしはしっかりと立って、理緒を支えていた。だから、泣かない。

しばらくして、お父さんがリビングにもどってきた。

「なんだって？」

お母さんがたずねると、お父さんはちよつと考えるようにだまって、うなずいた。

「うん、そうね」

なにが「うん、そうね」なんだよと、思っているとお父さんは理緒のほうに向きなおった。

「あのね、お母さん、これから迎えに来るって」

理緒がびっくりとした。お姉ちゃんが声をあららげる。

「お父さん！ どういうこと!？」

「落ちつきなさい、美紅」

お父さんはやりわりとお姉ちゃんをたしなめ、続けた。

「でも、理緒ちゃん。ぼくとしては、すくなくとも、今晚は、家に帰らないほうがいいと思う。朱理の部屋にふとんを敷くから、泊ま^とっていつてほしい。いろいろいるものがあつたら用意するから。朱理に言^つて」

「でも……じゃあ、お母さんは」

理緒の言葉に、お父さんはもう一度うなずく。

「うん、ぼくも考えたんだけどね、理緒ちゃんのお母さんとは、ぼくたちと三人で話をしようと思うんだ。ようするにおと
なだけでね」

それから、お父さんは小さく笑った。

「あのね、理緒ちゃん。ぼくは、本の編集の仕事をしているんだ。まえに児童虐待の本を担当したときに、ケースワーカーさんと話したことがあつてね。いろいろと教えてもらった。こうやって、家族の中で子どもがたいへんなときに、どうしたらいいかってことも」

みんな、だまってお父さんの言葉を聞いていた。

しずかなりビングにお父さんの声。言の葉のひとつひとつが、小さな光を放って、空気に溶け、不思議な力でわたしたちを包んでいくみたいだった。

「いちばん大切なのはね、理緒ちゃんが安心して暮らせること。ちゃんとおとなに守られて、気持ちを聞いてもらって、子どもとしてあたりまえの生活をおくること。だから、ぼくらおとなは、そのためになんでもする義務がある」

そう言って、お父さんは理緒のそばにしゃがむと、視線を合わせた。

「理緒ちゃん、お父さんにされたこと、ほんとうにいやだったろう。つらかったと思う。お父さんのしたことは、正しいことじゃない。よくないことだ。だから、理緒ちゃんは自分の気持ちを否定しなくていい。いやだったって、つらかったって、苦しかったって、思っていていいし、それをほかのおとなに言ってもいいんだ」

理緒はとまどったような顔で言った。

「だけど、うち、よそのおとなに迷惑かけるなんて……」

お父さんはくすりと笑った。

「あのね、理緒ちゃん。おとなに迷惑をかけるのはね、子どもとして当然の権利なんだよ。うしろめたく思う必要なんて、ひとつもないんだ。理緒ちゃんが幸せに暮らせるように、ぼくたちおとなは全力でできることをする。理緒ちゃんのお父さんやお母さんと話し合ったり、こまっていることがあったら手伝ったりして、みんなが幸せになれるように、がんばるから。だから、ひとつだけ約束してほしいんだ」

理緒は、**おすおすどくり返す**。

「約束？」

「うん。ひとつだけ。もう、ぜったいに死んじゃおうなんて、思わないで」

きつぱりとお父さんは言った。

「理緒ちゃんが死んじゃったら、ぼくはかなしい……なんて、今さっき会ったばかりのおじさんに言われてもこまるだろうけど、すくなくとも、朱理はかなしむよ。すごくかなしむと思う。朱理がかなしむのは、親としてぼくもかなしい。だから、

死んじやいたいなんて、思っちゃだめだよ」

理緒はなにも言わずに、小さくうなずいた。

「だけど、すぐにお父さんは首をかしげる。」

「^Eちがうな。そうじゃない。ごめん、思うのはべつにいい。いや、よくはないけれど、死んじやいたいって思っちゃうのは、理緒ちゃんのせいじゃないものね。理緒ちゃんがそれだけ苦しいってことだから。むしろ、うん。ぼくらはみんな、理緒ちゃんが生きていたって、そう思えるような世界にしていくよ。だから理緒ちゃんもぼくらおとなを信じてほしい」

理緒はたずねる。

「ほかに、うちはどうしたらいいですか？　うちにできること、なにかないですか？」

お父さんは言った。

「まず、理緒ちゃんは、自分の『いやだ』って気持ちとか、『つらい』って気持ちを、自分自身、しっかりと認めてあげること。それを無視むししたり、おし殺したりしないで、まわりのおとなや、先生、それができなかつたら、うちの朱理とか、ほかの友だちとか、だれでもいい。ちゃんと話してほしい」

「だけど……なんや、なんか悪くって……」

理緒はうつむいた。

「うちのせいで、こんなことに。うちばかり、みんなに助けってもらって……」

「そんなこと、思わなくていいの」

それまでだまっていたお母さんが、やさしい声で言った。

「あなたは十分がんばってきたの。あなたのせいでこうなったわけじゃないし、あなたが悪かったことなんて、今まで一度もないんだから」

「でも……」

「でも、じゃないの。理緒ちゃん。あなたはうちの朱理といっしょに、毎日できるだけ楽しく過ごして。それが、あなたが

今できる、いちばんのことよ。それ^Fにね」

お母さんは笑った。

「迷惑かけてるとか、助けてもらってるって、そういうのが気になるんだったら、いつか理緒ちゃんが大きくなったときに、他の人に親切にしてあげなさい。生きるってそういうこと。こまっているときに助けてもらったなら、今度はあなたがこまっている人を助けてあげればいいの。できるときに、できるだけ、そうすればいい。だから、今は気にしなくていいの。それでいいの」

理緒はうつむいた。「うちは……」

だけど、それ以上、言葉は続かなかった。わたしは理緒の手をそつとにぎる。

「理緒、だいじょうぶ。あとともう、まかせよう。っていうか、もう寝^ねよう。今日、つかれたでしょ？ わたしはめつちやつかれた」

わたしはそう言って笑う。お姉ちゃんも笑った。

「大活躍^{かつやく}だったよ、朱理」

お父さんは口もとをおさえてあくびをする。それからこう言った。

「……うん。じゃあ、まあ、これから実際にどうやって、理緒ちゃんのために動いていくか。そんな感じのいろいろなことをね、三人で話してみるつもり。理緒ちゃんのお母さんも、きつとこまっているだろうからね。ぼくも助けになるし、^G本格的に援助^{えんじょ}してくれる機関^{きかん}を、いっしょに探したりすることも、大事だろう」

キンコーン、と玄関^{げんかん}のチャイムが鳴る。

「理緒ちゃんのお母さんかしら」

お母さんが言うのと、お父さんはうなずいた。

(村上雅郁^{むらかみまさひこ}『りぼんちゃん』より)

問1 ……線部①「ぴりついていて」②「ぼそぼそ答えると」③「おずおずとくり返す」の本文中での意味として最も適切
なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①「ぴりついていて」

ア 神経がたかぶっていて

イ おそれをいだいていて

ウ 突然のことにおどろいていて

エ じっと成り行きを見つめていて

②「ぼそぼそ答えると」

ア ひとつひとつの問いにしっかり答えると

イ 何もつつみかくさず正直に答えると

ウ 小さな声で言いにくそうに答えると

エ 言えることだけをを選びながら答えると

③「おずおずとくり返す」

ア 疑いをはらそうと質問を反復する

イ 期待をもちながら言葉をくり返す

ウ よく考えた後に思いきって聞き返す

エ ためらいながらおそるおそる問い返す

問2 —線部A「この世の終わりみたいな感じの顔をしている」とありますが、りお「この世の終わりみたいな感じの顔」をしていたのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 朱理あかりのところに来ていたことが母親にばれたら後でどんなに責められるか、ということが思いやられたから。

イ 自分がさまよっていたことが母親から父親に伝わることで、また父親にひどく叱しかられてしまうのではないかと不安になったから。

ウ 自分がおこらせてしまった父親が、そのいかりを母親に向けてしまうのではないかと心配でならなかったから。

エ 両親の許しもなく他人の家に泊とまってお世話になっても大丈夫だいじょうぶなのだろうかと不安な気持ちが高まってきたから。

問3 —線部B「……今さらだよ」とありますが、こう言った朱理の気持ちはどういうものですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何度言っても少しも自分の言葉に耳を傾かたむけてくれなかった母親には、もはや何も望むまい、というあきらめの気持ち。

イ 自分が母親に相談してきたことをもっと早くわかってもらいたかったと思いつつも、やっと気づいてもらえて、ほっとした気持ち。

ウ 母親は自分のまちがいに気づいてあやまってくれているが、必要なのはあやまることではない、という不満に思う気持ち。

エ 理緒という他人のことは心配してくれるのに肉親の自分のことは放っておいてもいいんだ、というなげやりな気持ち。

問4 —線部C「うん、そうね」とありますが、お父さんがこう言ったのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 理緒の母親が娘を連れ帰ろうとしたときに、理緒に泊まっていってもらうためにはどうすればいいのか、考えをまとめようとしていたから。

イ 理緒を自宅に戻すとさえ、朱理はもちろんのこと、朱理の姉の美紅も強く反発することが予想されたので、それを言うのがためらわれたから。

ウ 理緒をとりあえず家にもどさねばならないと思っているお母さんに、今晚はこの家に泊まらせることをどう説得しようか思案していたから。

エ 理緒の母親が娘をむかえにくることになったので、どうやったら理緒に帰宅をうながせるだろうかと考えあぐねていたから。

問5 —線部D「言の葉のひとつひとつが、小さな光を放って、空気に溶け、不思議な力でわたしたちを包んでいくみたいだった」とありますが、これはどういう様子のことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア むずかしい単語が混ざっているお父さんの話は十分に理解できなかったものの、お父さんのやさしい声がみんなの心にしみこんでいく様子。

イ お父さんの子どもたちに対する熱い思いをこめた言葉と態度に圧倒されて、だれもそれにこたえることができなくなっていく様子。

ウ お父さんが自分の仕事で得た知識を話してくれることで、状況がよくなるという希望がその場の皆に共有されていく様子。

エ 理緒の立たされているつらい立場を、一般的な場合を引き合いに出すことで少しでもやわらげようとするお父さんの気持ち伝わっていく様子。

問6 —線部E「ちがうな。そうじゃない」とありますが、このお父さんのことばについて、次の問いに答えなさい。

(1) 「ちがう」とは、どういうことがちがうのですか、具体的に書きなさい。

(2) お父さんはなぜ「ちがう」と思ったのですか。その理由を説明しなさい。

問7 —線部F「それにね」とありますが、お母さんが付け加えようとしたことはどういうことですか。その説明として

最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 娘の朱理の願いがかなえられることは母親の自分も最も望んでいることだ、ということ。

イ 今、娘の朱理に恩を感じるのなら、やがて成長してから恩返ししてくれればいい、ということ。

ウ 両親のことが心配なのは分かるけれども、今日はおとなにまかせてぐっすり眠りなさい、ということ。

エ 世話になったことが気になるなら、将来別の人にその思いを返しなさい、ということ。

問8 ——線部G「本格的に援助してくれる機関」とありますが、次に示すのは、この機関と小説についておとなと五人の子どもが話し合っている場面です。本文を正しく理解していない発言を、A～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

おとな……これは児童相談所のことです。理緒の父親は娘に対して暴力をふるったり、強くしかりつけたり、無視したりするわけではないけれど、理緒の前で周囲の人を怒鳴りつけたりしていました。これは児童虐待にあたるおそれもあります。そのために朱理のお父さんは「児童虐待」や「本格的に援助してくれる機関」という言葉を使っていると思われます。

子どもA……理緒は、信頼できるはずの父親を恐れなければならないなんて苦しいよね。でも周りの人たちにも手伝ってもらえば、家は安心して安全な場所になると、ぼくは信じている。

子どもB……朱里のお父さんが、自分の力だけで理緒を助けようとしているところはえらいよね。よその家のことを見て見ぬふりをするおとなが多いなかで、なかなかできることではないよ。

子どもC……だけど理緒は、朱里の家に泊まろうと思えたかな。朱里の両親はいい人たちだけど、理緒にとってよそのおとなに頼ろうと思うのはむずかしいと思う。

子どもD……そうだね。理緒は、ずっと自分の苦しい気持ちをひとりでかかえてきたのだし。でも社会には、こまっている人を助けようとするおとながいて、そういう機関もあるということを知ったことで、理緒の考え方が変わるとい

な。
子どもE……理緒の父親はよい方向に変わるだろうか……。でも、変わるとい希望を持ち続けることは大事だよ。児童相談所もそういう希望につながる見通しをつけてくれるはずだよ。

